

令和3年度 第3回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和4年1月17日（月） 午後2時00分から午後3時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：9名〉

- ① 神保 富美子 委員長
- ② 安藤 陽 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 飯塚 真澄 委員
- ⑤ 井上 直也 委員
- ⑥ 岩井 寛和 委員
- ⑦ 桑原 静 委員
- ⑧ 寺田 道子 委員
- ⑨ 林 勇 委員

〈事務局：12名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 吉田 治士
- ② 参事兼副館長 中村 和哉
- ③ 参与 野崎 隆史
- ④ 主幹兼事業・企画係長 有江 良修
- ⑤ 事業・企画係主任 曾根 啓佑
- ⑥ 事業・企画係主任 三井 響子
- ⑦ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑧ 社会教育指導員 永井 紀美子
- ⑨ 青少年宇宙科学館 松本 真治
- ⑩ 博物館 矢野 慧太
- ⑪ うらわ美術館 松原 知子
- ⑫ 大宮西部図書館 中杉 紘子

4 欠席者名

〈委員：2名〉

- ① 難波 陽子 委員
- ② 平田 利雄 委員

5 報告事項

(1) 前回の議事録について

6 協議事項

(1) 令和4年度さいたま市民大学各コース（案）について

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 協議内容

事務局より、さいたま市民大学教養Ⅰ・Ⅱ、ビジネススキル、暮らしとお金の各コースについて説明をした。

【教養Ⅰ・Ⅱについて】

岩井委員	教養Ⅰの気象情報とは、一般論的な内容なのか、さいたま市の特徴等についても内容に含まれるのか。
事務局	さいたま市の特徴等についても講義していただく予定である。
青木委員	教養Ⅰの講師は著名人なので、講座テーマに「気象予報士に学ぶ」「テレビ番組でおなじみの平井氏」といった文言があると、キャッチーさが出ると思う。教養Ⅱでも、テーマの「我々」を「わたしたち」にしたり、概要に「理系が苦手でも大丈夫」といった文言があったりすると、親しみやすく受講しやすく感じる。
林委員	教養Ⅰは素晴らしい内容なので、動画にしてアーカイブ的な活用ができるといいのではないか。
事務局	原則として受講者からは受講料をいただくことになるので、アーカイブ化等を検討するに際しては、会場での受講との差異や講師の意向等を勘案し、慎重に検討させていただく。
神保委員長	そうしたことも含めて、引き続き講師と調整して欲しい。

【ビジネススキルについて】

岩井委員	このコースは以前私も受講したことがあり、人気が高かった記憶がある。応募者が定員を超えた場合は抽選となると思うが、最近の応募状況はどうか。例年定員を超える申し込みがあるならば広報は適切だと思われるし、定員を下回っているようであれば、広報やPRの方法を検討する必要がある。
神保委員長	応募状況については、コロナ前とコロナ後で事情がかなり異なると思うが、いかがか。

事務局	<p>令和元年度は定員40人に対して応募が56人、令和2年度は定員50人に対して応募が46人であった。</p> <p>令和3年度はI・IIコースに分かれており、それぞれ会場とオンラインを合わせて実施したが、Iコースは定員50人に対して応募が63人、IIコースは定員50人に対して応募が43人となっている。</p> <p>来年度のビジネススキルコースは定員が大幅に増加するため、広報により一層力を入れていきたい。</p>
-----	---

【暮らしとお金について】

林委員	概要に「いわゆる2000万円問題」とあるが、この問題は非常に誤解を受けやすい文言なので、行政の事業では使わない方がいいのではないか。
事務局	誤解を受けやすいからこそ、その内容を学ぶという趣旨であったが、検討する。
安藤副委員長	実施時期が7月下旬だと、大学生は試験の時期だと思う。主な受講者のターゲットに大学生も含まれるのであれば、時期をずらした方がいい。また、大学生より上の世代で若い方となると、仕事の都合もあって平日の開催では参加が難しいのではないか。
神保委員長	そもそもこうした講座では、主催側の意図と異なった受講者層となることも十分にありうる。特に講座テーマや概要を見ると、子育て世代の親御さんや50台前後の方の受講もあるかと思う。それを踏まえると、行政としてターゲットを設定した上で、実際の受講者は幅広くいろいろな世代の方となっても大丈夫か。
事務局	<p>講師との協議においては、ターゲットを設定していることと、実際の受講者はターゲットより幅広くなりうることを説明している。</p> <p>開催に当たっては、申込みの状況を注視し、講師と緊密に連絡を取ったうえで、臨機応変な講座内容をお願いするつもりだが、時期については講師の人選自体にも影響するため、日程と講師両方を変更できるとは限らない。</p>
青木委員	来年度からは高校の家庭科の授業で資産形成や投資について扱うと聞いており、夏休み期間に若い世代の受講者を集めるなら、高校生へのPRも有効だと思う。
事務局	おっしゃるとおりであり、周知に努めていく。

青少年宇宙科学館、大宮西部図書館、博物館、うらわ美術館より、科学、文学I、文学II、歴史、美術の各コースについて説明をした。

【各連携コースについて】

飯塚委員	<p>科学について、演題や内容の言葉が硬い印象を受ける。</p> <p>例えば「ロボット制御ミッションにチャレンジ」は、「レースで勝とう」「玉入れをやろう」「サッカーゲームにチャレンジ」といった言葉の方が、子どもも興味を持ちやすいと思う。</p>
------	---

	プログラミングの習熟度は学校や先生によって差があると思うので、キャッチーな言葉で伝えた方が受講者は集まりやすいと思われる。
事務局	文言について再度検討する。
桑原委員	文学について、Ⅰコースのテーマは心に訴えかけるものが感じられるのに対し、Ⅱコースは簡潔すぎるように感じる。主な内容の記載はどちらのコースも丁寧なので、Ⅱコースについても言葉に装飾があるといい。
寺田委員	文学の内容を見ると、Ⅰコースでは白樺派、Ⅱコースでは夏目漱石といった著名人等を扱うようなので、こうした文言をテーマに盛り込むと、ファンの目に留まるのではないか。
事務局	白樺派や夏目漱石はあくまで講座の一部なので、テーマそのものに組み込んでしまうと市民に誤解を与えるかもしれない。 そうしたことも踏まえ、市民に興味を持ってもらえるような文言を検討する。
林委員	文学Ⅰ、Ⅱコースの開催時期が近いことから、両方に申し込む方が多くいると思うが、例えば両方のコースに申し込んだ場合で抽選となった際、Ⅰコースに落選した方はⅡコースで優先される、といった措置はあるか。
事務局	1人でも多くの方が講座を受けられるように、ということ念頭に置きつつ、抽選については他のコースとの兼ね合いもあるため、慎重に検討する。
安藤副委員長	歴史について、テーマに「考古編」とあるのは、後々中世編や近代編といった講座を企画する予定があるということか。
事務局	そのとおりで、今後こうしたテーマを数年かけて実施していきたいと考えている。
林委員	美術について、再来年度にはトリエンナーレがあると思うが、このコースはトリエンナーレと関連したものになるのか。
事務局	トリエンナーレとの連携は、現時点では考えていない。

事務局より、さいたまの魅力Ⅰ・Ⅱ、市民企画、さいたまの食、まちづくり、パソコンの各コースについて説明をした。

【さいたまの魅力Ⅰ・Ⅱについて】

岩井委員	このコースは非常に人気が高いことが予想され、応募も殺到すると思うが、抽選となった場合にはターゲットである学生等の若年層を優先する、といったこともありうるのか。そうであれば、対象自体を高校生以下や小中学生に限定してしまってもいいと思う。
事務局	「夏休み特別講座」と銘打って実施する関係上、対象を限定することも含めて検討する。
飯塚委員	子どもと一緒に申し込む場合、親だけ、あるいは子どもだけ当選する、といった事態は避けたいと思うが、それは可能か。
事務局	申込の際に家族単位で申し込んでいただければ、抽選の際も家族単位で抽選を行う。定員の関係上、1家族3人まで、といった制限を設けることとなる。

【市民企画・さいたまの食・まちづくりについて】

林委員	市民企画について、多くの人が参加できる広い会場なのに、定員が40人なのは理由があるのか。
事務局	講座の中で個別相談や宿題等のチェックを行う関係上、講師が十分に対応できる人数を協議し、定員を設定した。
神保委員長	さいたまの食について、第2回以降は主な内容が画一的な印象を受けるが、これは野菜の名称が決まっていないからか。
事務局	文言については講師と調整中であり、野菜の名称が固まった段階で「学校給食でもおなじみ」「この時期に栄養価が高い」などといった説明を加え、内容に深みを持たせていきたいと考えている。
寺田委員	さいたまの食は各回で募集を行うとのことだが、5回とも受講したいと思ったら5回申し込みを行う必要があるのか。
事務局	お見込みのとおりである。
桑原委員	まちづくりについて、副題を付けたことによって「貧困」や「脱却」といった言葉のインパクトがさらに強まったように感じる。 「移動と交通から考える暮らしやすいまちづくり」といった文言にしたり、「移動貧困社会」といった形でマークを付け、一つの単語のように見せたり、という工夫をしてはどうか。
安藤副委員長	「移動貧困社会からの脱却」という言葉は講師自身のキーワードでもあるため、変えるのは難しいと思う。モビリティや交通といった切り口ではあるが、全体としてはまちづくりに関する講座となるので、今副題となっている「幸せに暮らせるまちづくり」を主題とし、「移動貧困社会からの脱却」を副題にしてはどうか。
青木委員	演題にある「人生100年時代」「一生涯移動に困らない」という言葉がわかりやすいので、これをテーマにも使って「人生100年一生涯移動に困らないまちづくり」とするのはどうか。
事務局	いただいた御提案を基に、講師と再度調整する。
寺田委員	まちづくりの定員について、この会場で実施する他のコースと同様に90人とした方がいいのではないか。
事務局	定員について、講師と再度調整する。

【パソコンについて】

桑原委員	パソコンボランティア講師養成について、受講後に活動場所を紹介するなどといった取組はあるのか。
事務局	講座の講師を務める NPO 法人をはじめ、市内で活動するパソコン指導のボランティア団体等を紹介する予定である。
桑原委員	ホームページ作成支援について、対象を青少年や若者とした理由は何か。
事務局	起業や副業に役に立つような内容を取り扱う想定であるため、比較的若い世代

	をターゲットに設定した。
桑原委員	シニアユニバーシティ等では、シニアの方も Jimdo を使ってホームページを作っている。若い世代を対象とするなら、WordPress などもう少し高度な内容にしてもいいと思う。
事務局	若い世代を対象とするため、全2回のうち Jimdo 自体の操作説明は1回としている。もう1回の講座では、作ったホームページの活用方法として、主な内容にもあるとおり SNS 連携や検索エンジンの活用など、操作だけではない広がりを持たせた内容とすることを想定している。

10 その他

令和3年度さいたま市民大学の実施経過について事務局より報告を行った。

11 閉会